

**令和7年度国庫補助金
重要文化財「菅茶山関係資料」美術工芸品保存修理事業概要**

1 事業対象の文化財の概要

重要文化財「菅茶山関係資料」（所有者：広島県）

平成26年8月21日指定（5,369点）、令和7年9月26日追加指定（886点）

点数：6,255点（著述稿本類、文書・記録類、書画類、書状類、典籍類、絵図・地図類、器物類）

2 事業目的

備後国安那郡川北村（福山市神辺町）の漢詩人、儒学者、教育者であった菅茶山（1748～1827）に関する資料である「菅茶山関係資料」6,255点について、保存と活用を図るために、特に傷みのある資料から保存修理を行う。

3 全体の事業期間

令和7年度は、第3期5か年計画の第1年目に当たる。

第3期5か年計画の第2年目以降は、追加指定資料を組み合わせる予定である。

令和7年度は、著述稿本類5点と書画類1点（卷子装）の修理を行った。

4 本年度総事業費及び交付決定金額

(1) 収入の部

(2) 支出の部

区 分	金 額	備考	区 分	金 額	備考
所有者負担額	円 1,320,000		(項) 修理費 (目) 委託料	円 2,576,751	
国庫補助額	1,320,000		(項) 事務費 (目) 旅 費 (目) 需用費	58,410 4,839	
合 計	2,640,000		合 計	2,640,000	

5 本年度の修理事業の概要

〔著述稿本類〕

(1) 黄葉夕陽村舎詩 上 (指定番号 著述稿本類 52 (管理番号 G008-058))

【寸 法】縦 24.4 cm、横 17.5 cm

【現状と方針】

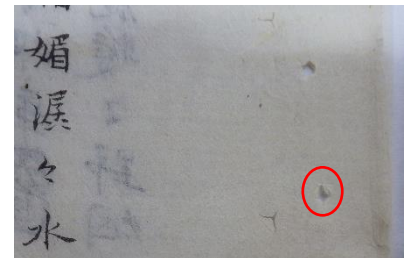
- ア 修理では、クリーニング、皺伸ばし、補修を行う。
- イ 虫損の補修は、必要最小限に留め、漉きむらに起因する穴も、特段の事情がない限り、現状のままとする。
- ウ 49～50 丁目の綴じ穴に引っかかっていた紙片を典具帖紙で補強し、元の位置に綴じ込む。
- エ 85～86 丁目間の脱落貼紙2点のうち、刊本の記述とブラックライトによる糊跡調査で元の位置を特定できた1点(「雪」)を貼り戻す。元の位置を特定できない1点は別置する。
- オ 元の位置が特定できない脱落不審紙、脱落貼紙は別置する。
- カ 表紙及び裏表紙の裏打ちに使用された反古紙は、剥離して別置保存する。反古紙と同じ厚さで新調した紙を使用し、裏打ちを施す。
- キ 紙縫りを新調する。
- ク 椽紙で収納カバーを新調し、資料を挟むことで本紙を保護する。



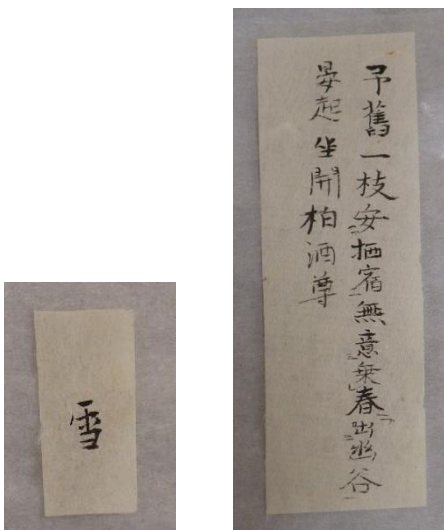
紙片



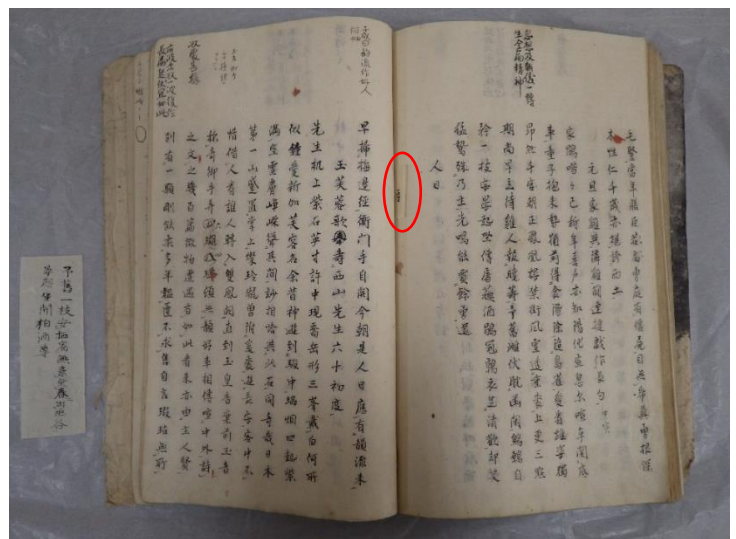
49～50 丁目



綴じ穴



脱落貼紙



85～86 丁目 (修理前)

子成曰
韻流何
何人何

早掃梅邊雪
衡門手自開
今朝是人日
應有韻流來

玉芙蓉歌壽西山先生六十初度

先生机上紫石英
寸許中現喬岳形
三峯戴白何所
似鐘愛新加芙蓉
名余昔神遊到駿
中瑞烟四起紫
滿空雪膚崢嶸
聳其間妙相恰與
此石同奇哉日本
第一山覺置掌上
燦玲瓏曾附美囊
遊長安客中不
惜借入者誰人
轉入雙鳳闕直到
玉皇香案前

玉音稱奇

忽想及
初微一
轉生全
篇精神

黑雲北來壓夜館
雪徑有跡大如靴
單身舞劍向岩
穴雷吼一聲山欲
裂畫晴閃鏢牙鬚
恐展玩如覺身
毛豎當年膳臣若
為勇庭有僵屍目
無虎真勇移深
木性仁千歲亦堪
誇西土

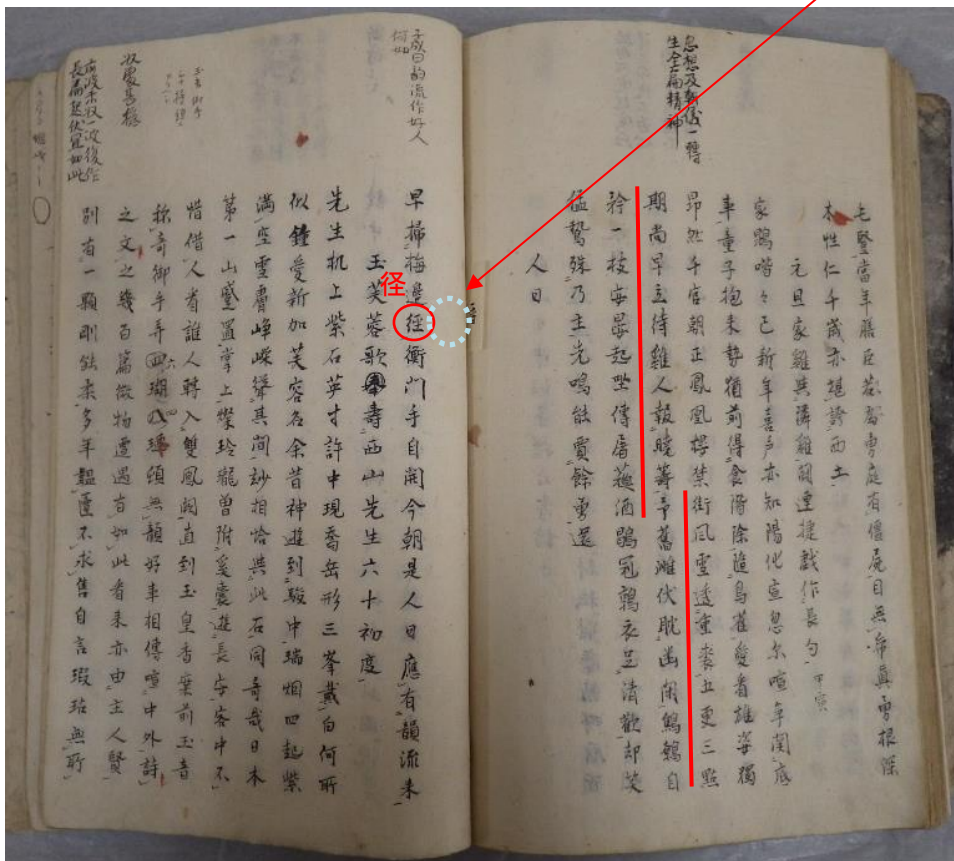
元旦家雞與隣雞
鬪連捷戲作長句

家鷄啾啾已新年
喜聲亦知陽化宣
忽爾喧爭闕底
事童子抱來勢猶
前得食階除隨鳥
雀愛看雄姿獨
昂然千官朝正鳳
樓禁街風雪透重
裘立更三點

期尚早立待雞人
報曉籌予舊一枝
安拙宿無意乘
春出幽谷晏起坐
開栢酒尊鷄冠鷄
衣足清歡却笑

刊本(前編 卷4)

糊跡

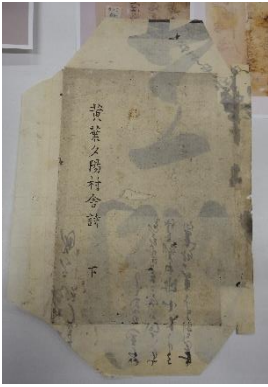


ブラックライトで短波長の紫外線を放射すると、糊跡が光って見える。

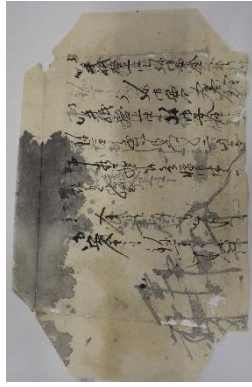


ブラックライトで光る糊跡
('徑'字横)

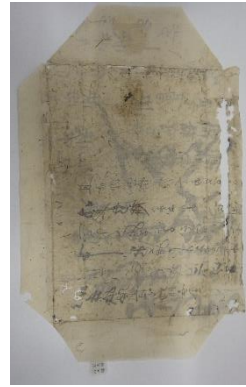
85~86 丁目 (修理前)



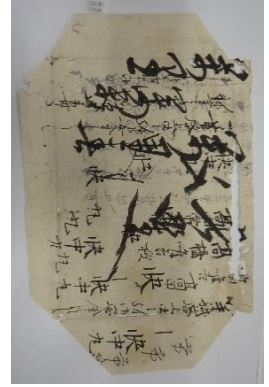
表紙



(表紙裏)



裏表紙



(裏表紙裏)

(2) 黄葉夕陽村舎詩 下 (指定番号 著述稿本類 53 (管理番号 G008-057))

【寸 法】縦 24.8 cm、横 17.5 cm

【現状と方針】

ア 修理では、クリーニング、皺伸ばし、補修を行う。

イ 虫損の補修は必要最小限に留め、漉きむらに起因する穴も特段の事情がない限り、現状のままとする。

ウ 6～7丁目の綴じ穴に引っかかっていた紙片典具帖紙で補強し、元の位置に綴じ込む。

エ 35丁目の断裂した付箋(墨書「七巻」)については、同じ紙質(同じ厚みの楮紙)の補修紙にて、他の付箋(墨書「五巻」「六巻」)と長さを合わせて補修する。

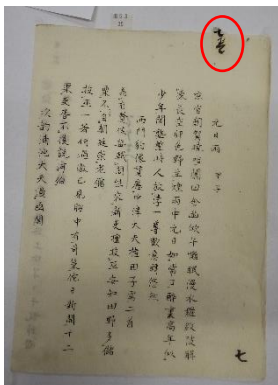
オ 44丁目の丈の長い付箋については、保存や取扱い上の観点から、付箋上端を補強のうえ、修理前の折り目を基に折り込む。

カ 元の位置が特定できない脱落不審紙は別置する。

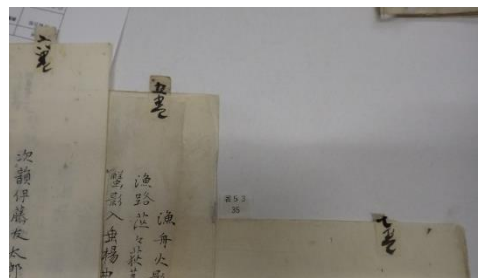
キ 表紙及び裏表紙の裏打ちに使用された反古紙は、剥離して別置保存する。反古紙と同じ厚さで新調した紙を使用し、裏打ちを施す。

ク 紙縫りを新調する。

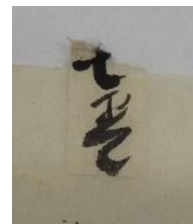
ケ 楮紙で収納カバーを新調し、資料を挟むことで本紙を保護する。



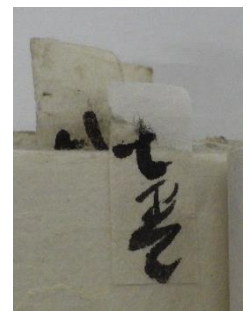
35 丁目 (修理中)



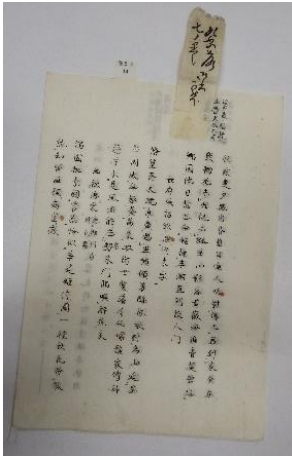
著述稿本類 53 の他の付箋



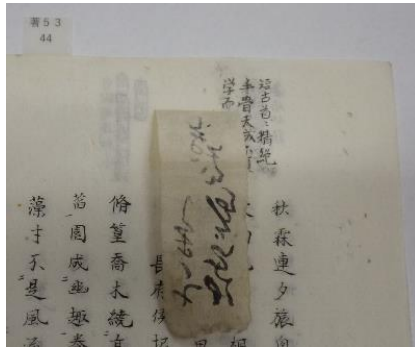
修理前



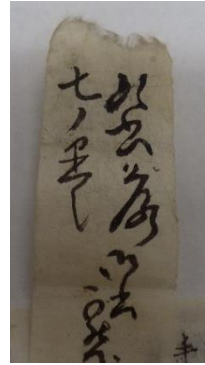
修理後



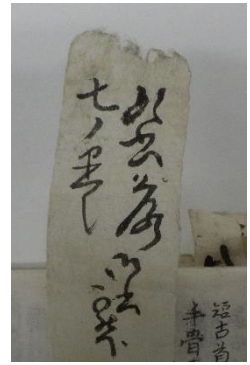
44 丁目（修理中）



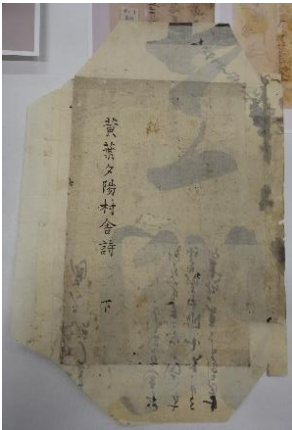
付箋を折り込んだ状態



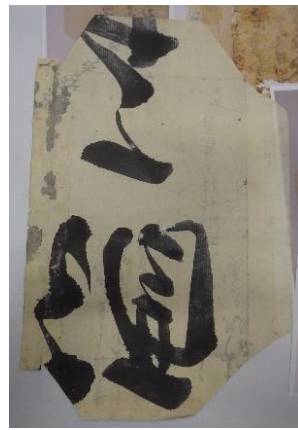
修理前



修理後



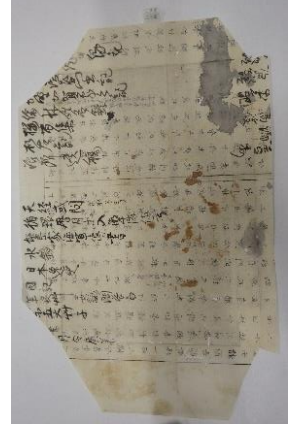
表紙



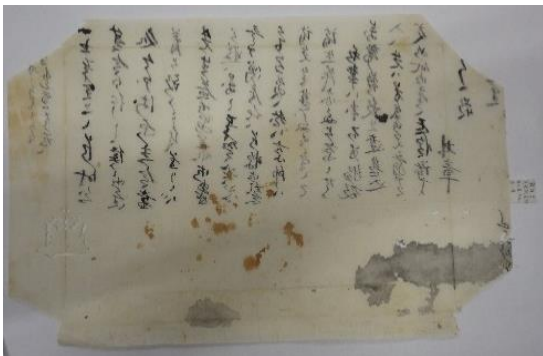
（表紙裏）



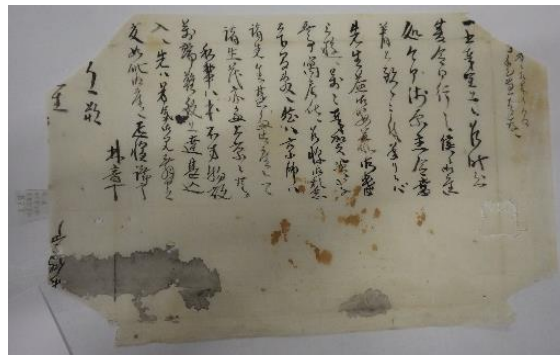
裏表紙



（裏表紙裏）



剥離した裏表紙の増裏



剥離した裏表紙の増裏（紙背）

(3) 茶山樵響七古（指定番号 著述稿本類 218（管理番号 G009-009、G006-1-072））

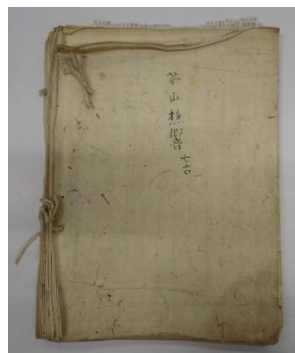
【寸法】縦 25.0 cm、横 17.6 cm

【現状と方針】

- ア 修理では、クリーニング、皺伸ばし、補修を行う。
- イ 虫損の補修は、必要最小限に留め、漉きむらに起因する穴も、特段の事情がない限り、現状のままとする。
- ウ 紙縫りの断裂により脱落した本紙を、新調した紙縫りにより、大和綴じにて綴じ直す。
- エ 中性紙封筒内に挟まっていた本紙断片は、クリーニング後の調査で、元の位置が2丁目オモテであることが判明したため、上記位置に貼り直す。
- オ 楮紙で収納カバーを新調し、資料を挟むことで本紙を保護する。



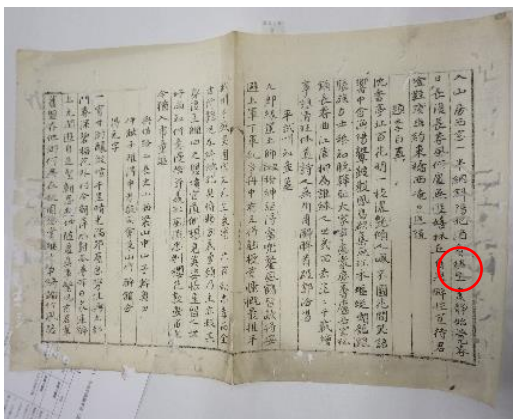
綴じから脱落した本紙（修理前）



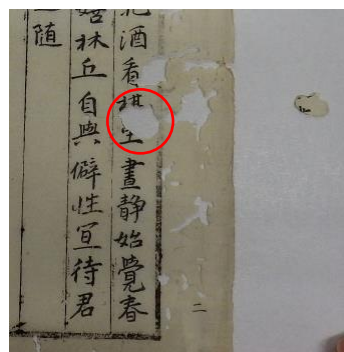
裏表紙（修理中）



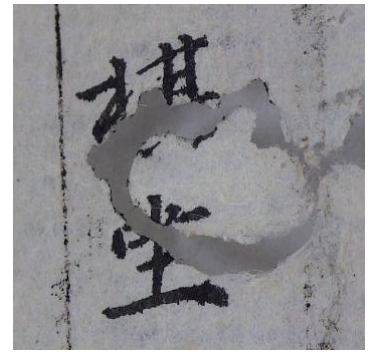
断裂した紙縫り（修理中）



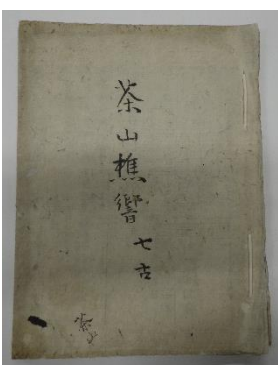
2丁目（修理中）



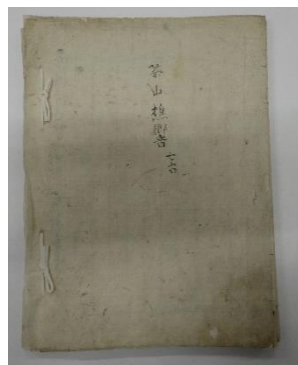
本紙断片と脱落箇所



貼り戻す位置



表紙（修理後）



裏表紙（修理後）

(4) 茶山遺書追加文案（指定番号 著述稿本類 569（管理番号 J007-005））

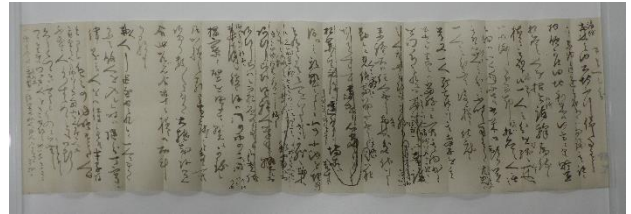
【寸法】縦 16.4 cm、横 57.9 cm

【現状と方針】

- ア 修理では、クリーニング、皺伸ばし、補修を行う。
- イ 虫損の補修は、必要最小限に留め、漉きむらに起因する穴も、特段の事情がない限り、現状のままとする。
- ウ 楮紙で収納カバーを新調し、資料を挟むことで本紙を保護する。



(修理前)



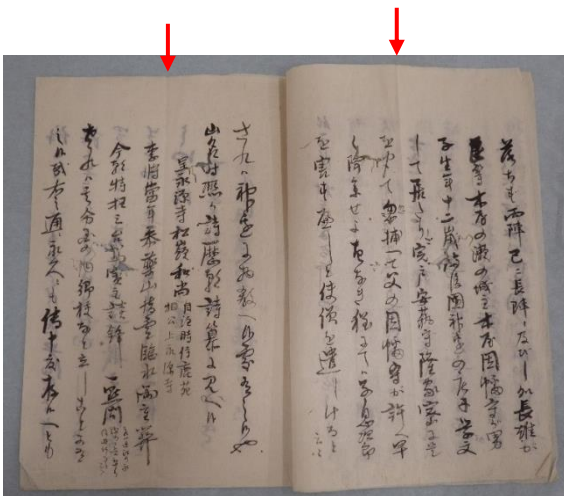
(修理後)

(5) 菅茶山書付（村塾取立てにつき）（指定番号 著述稿本類 575（管理番号 J004-132））

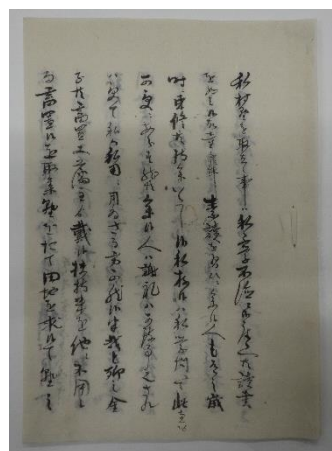
【寸法】縦 25.1 cm、横 17.3 cm

【現状と方針】

- ア 修理では、クリーニング、皺伸ばし、補修を行う。
- イ 虫損の補修は、必要最小限に留め、漉きむらに起因する穴も、特段の事情がない限り、現状のままとする。
- ウ 折り畳み痕については、従来の修理事例及び取り扱い上の観点から、修理報告書に記録したうえで、折り畳みずに保管する。
- エ 紙縫りを新調する。
- オ 楮紙で収納カバーを新調し、資料を挟むことで本紙を保護する。



折り畳み痕(修理前)



(修理後)

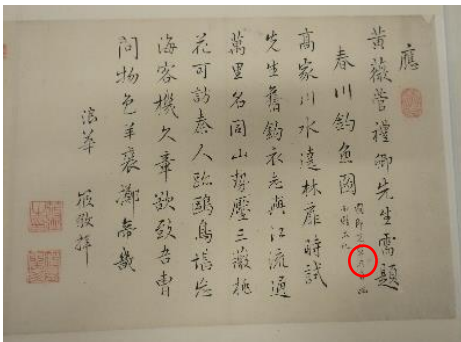
〔書画類〕

(6) 春川釣漁詩帖（指定番号 書画類 115（管理番号 C010-051））

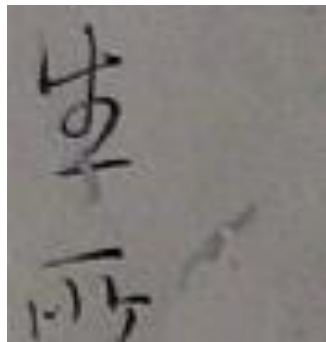
【寸法】縦 28.8 cm, 横 1481.3 cm

【現状と方針】

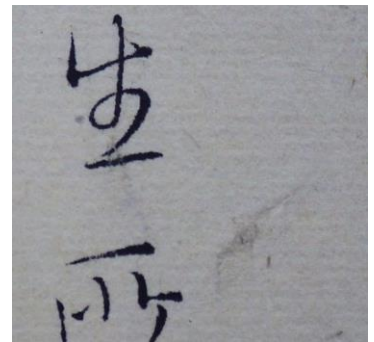
- ア 修理では、卷子装を解体し、クリーニング、旧肌裏紙等の除去、補修を行う。本紙の地合いを損なわない色味で肌裏紙等を打つ。
- イ 本紙の明るい箇所にあわせた基調色一色を用いて、補修箇所に補彩を施す。
- ウ 18 丁目のうち、本紙をひっかける形で裏打ちしたため、穴が開いたようになっていた箇所については、裏打ち紙を除去して本紙を伸ばした後、裏から別に補修紙をあてて、元の形に戻す。
- エ 29 丁目の裏打ち紙に付着した本紙の断片は、元の位置に貼り戻す。
- オ 本紙の継ぎ下に隠れていた朱印は、可能な範囲で印影が見えるように紙を継ぎ直す。
- カ 8 丁目の継ぎ下に隠れていた文字は、本紙の柄の一部であるため、修理報告書に記録した後、元のまま貼り戻す。
- キ 本紙に付された足し紙（複数の別の本紙を再利用）は元使いとし、裏打ちして本紙の裏から貼り戻す。天地保護のため、2～4mm の足し紙を施す。
- ク 表紙及び見返し紙は、再利用する。表紙及び見返し紙は、それぞれ裏打ちした後、元の位置に貼り戻す。見返し紙は、表紙に各 1 寸程度の足し紙を加えた後に貼り戻す。
- ケ 本資料は、文政 10 年（1827）に表装された書画 30 軸の一つで軸を欠くが、意図的に軸を付けていない可能性があることから、軸は新調せずに、巻芯（1 寸 6 分）を添えて保管する。
巻芯を巻き込む形で保管するため、本紙の最終紙に、新たに 1 尺 5 寸程度（本紙の 1.2 倍程度）の巻末紙を付ける。また、巻芯を安全に巻き出すための指標として、巻芯にはベロを取付ける。
- コ 紐を新調する。
- サ 桐屋郎箱及び桐太巻添軸を新調する。



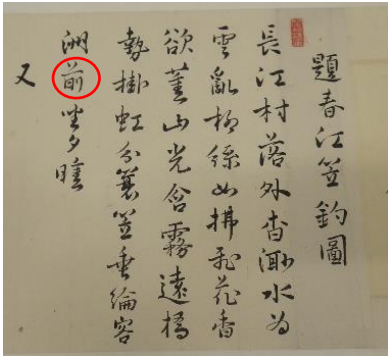
18 丁目（修理後）



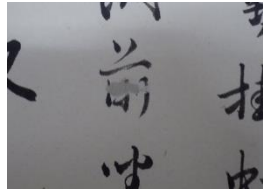
（修理前）



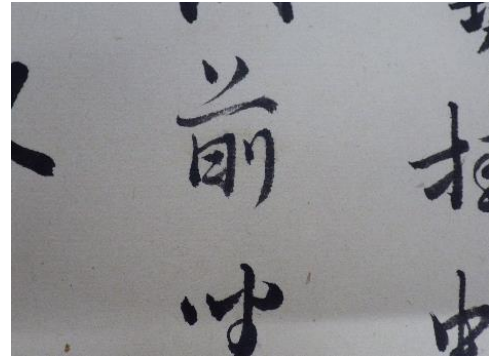
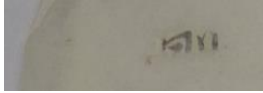
（修理後）



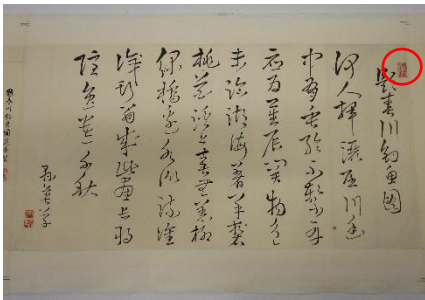
29 丁目 (修理後)



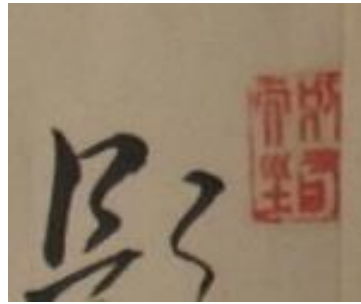
破損箇所と裏打紙に付着した断片 (修理前)



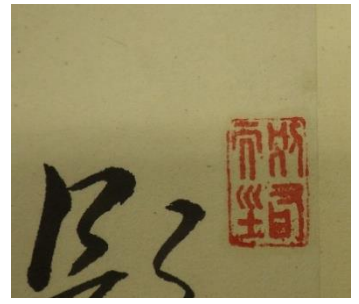
(修理後)



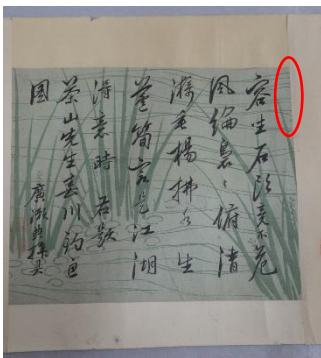
26 丁目 (修理後)



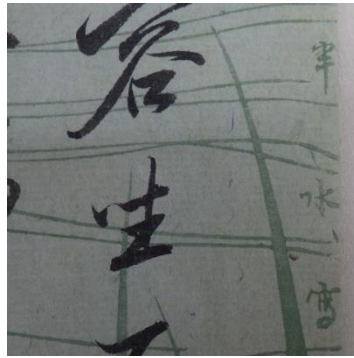
右端が隠れた印影 (修理前)



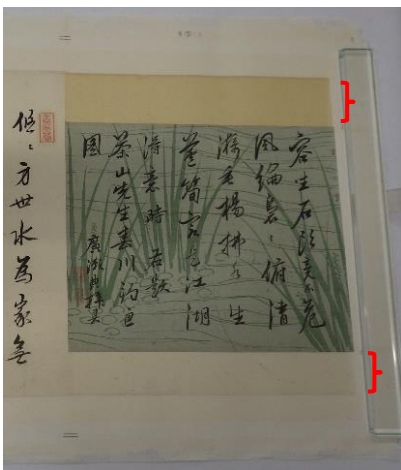
(修理後)



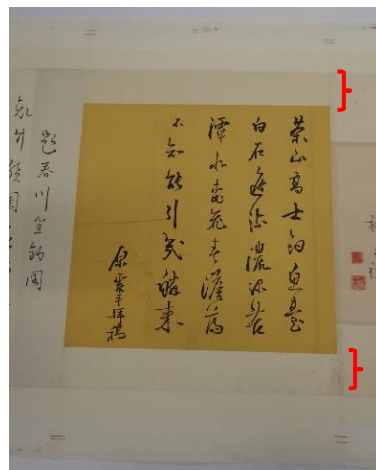
8 丁目 (修理前)



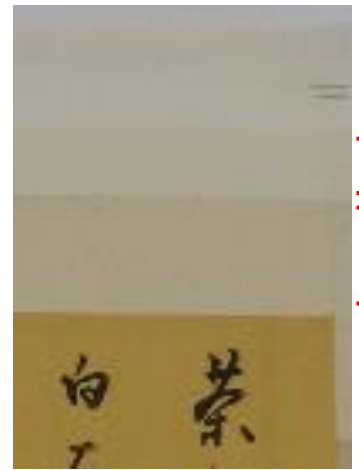
継ぎ下に隠れていた文字 (修理中)



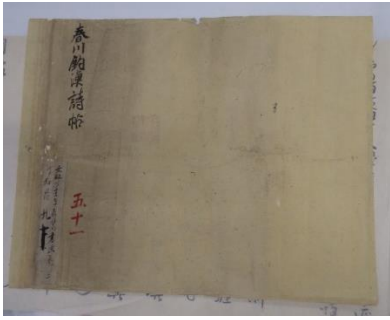
元使いの足し紙 (上下で色が異なる)



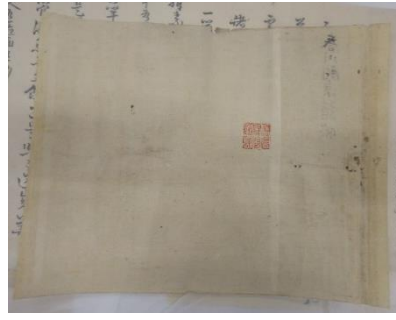
元使いの足し紙



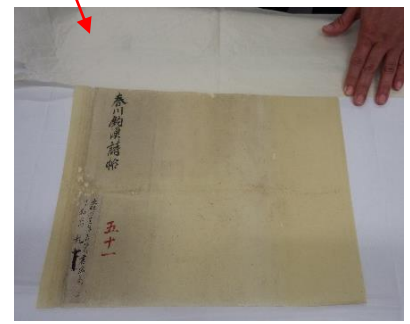
元使い (下) と天地保護の足し紙 (上)
※ 上は 2~4mm の長さで断ち切る。



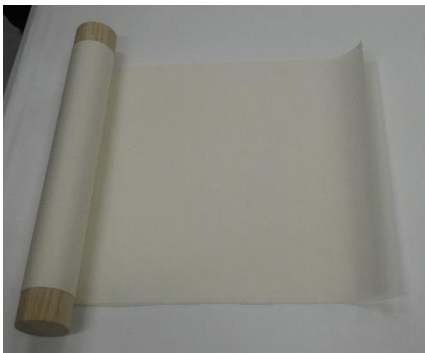
表紙（修理中）



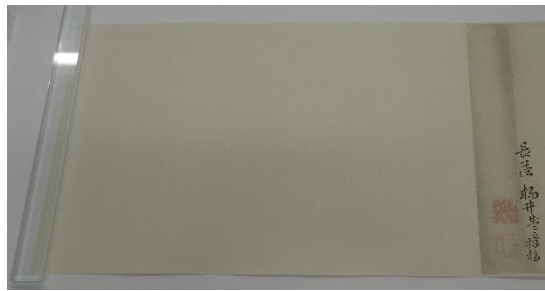
見返し紙（修理中）



表紙に使用する足し紙



ベロを付けた巻芯



巻末紙（修理後）



新調する紐の色味



旧紐



（修理後）



本事業は、文化庁美術工芸品重要文化財修理事業国庫補助金の交付を受けて実施されています。

Supprted by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2025